

## 平成26年度視察研修参加者報告書より

### 【茨城県東海村社会福祉協議会 東海村福祉後見サポートセンター】

- ・東海村での後見制度の研修では、日常生活自立支援事業から後見制度の利用という一連の考えの中で行われる業務内容や規定に関して、非常に参考になることが多く、現在は当社協では後見事業は行っていないが、日常生活自立支援事業業務を行う上で、今後の参考にさせていただきたいと思うものが多かった。また、多数の実務を行うことによる実績や、それによって表面化した課題なども非常に参考となった。
- ・法人後見については、恵庭市において成年後見支援センター(仮称)を設置するための検討会を立ち上げ、本会職員も検討会に加わり進めていることから、この度の研修会の資料や現地でのお話は大変参考になりました。
- ・約3万8000人の人口で、日常生活自立支援事業が16名と成年後見制度が6名の利用があることは、札幌市の190万人の人口に置き換えると、札幌では、どれほど利用者がいるのだろうか、考えさせられた内容であった。
- ・小清水町社協にも重なるが法人後見制度では死後事務の対応について被後見人が亡くなった時、成年後見人代理権が消滅し時点で終了となるが、それで終わらないことも後見人事業の課題となることを知らされた。永代供養や、死亡後の手続きにも関わらなければならないとの見解だった。これに関しては小清水町社協も同様にいずれにしても成年後見制度の改正点であることを感じた。  
今回の研修だけでは学びきれないことが多々ありすぎるが、いずれにしても成年後見制度については今後も後見人という役割を適正に行い、判断能力が不十分な方に援助を継続し、経験と研鑽を続けていきたい。

### 【千葉県柏市社会福祉協議会 コミュニティカフェ(ふれあい喫茶、まつばR)】

- ・柏市のコミュニティカフェ事業では、その目的の違いにより、カフェの設立からその運営方法も全く異なり、ふれあい喫茶のように高齢者のたまり場としての機能を求めて設立されたものと、まつばRのように幅広い世代を対象とした地域の情報発信地として設立されたものとは、どちらもコミュニティカフェではあるが、全くの別物であった。現在当地域では、コミュニティカフェ事業を行っていませんが、今後、この事業を行う機会があれば、どのような目的でカフェを設立するかという点で参考にさせていただきたい。
- ・地域での世代交流が希薄化していること、地域の規模に関係なく大きな課題となっていることは、日常の業務を通して痛感しているところではある。カフェやイベントなども創意工夫次第であると思うが、果たして自分の地域でどのように交流の場のセッティングしていくのか、業務を通して再考していきたいと思った。無償ボランティア80人が活動しているとのことであったが、そのボランティアへの働きかけや集約の仕方を具体的に聞いたかった。
- ・男性の参加が少ないということも、比較的的日常業務では感じていることでもあり深く共感できたことではあった。男性にしかできないことや特性を考察して参加できる雰囲気や態勢を構築していく必要があると感じた。

### 【東京都豊島区民社会福祉協議会 学習支援事業】

- ・生活困窮者自立支援制度は恵庭市では行政直営を予定しており、今後委託の可能性はありますが、任意事業として行政から要請があれば、恵庭市では教職員互助会が赤い羽根の街頭募金を実施している他、民生委員に教職員OBもいることから、ネットワークのイメージを持つことができたと思います。
- ・広報などでCSWの活動や成果を知らせることが多くの周知と理解を得ることができたとのことで、広く周知することで問題を抱えたケースを1件でも多く救う必要があると感じた。また、受け身ではなく直接

家庭を訪問することでその子のおかれている状況を把握することができるため、現場に出向くことが、とても重要と再確認できました。

また、関わりの中で、学習支援の場へ来ることは来るが、なかなか他者と交流を持とうとしない子への親身な接し方で、さらには時間をかけることで心を開き、抱えている悩みなどを話してくれるようになったケースの話を受け、真剣に向き合うことの大切さを再確認しました。

- ・学習支援活動のキッカケが大きく違くと強く感じた。鷹栖町社協の事業展開は、どちらかという住民の声を受け形にしていくものが多く、私たちも住民の想いを形にするのが社協であると訴えてきた。

しかし、豊島区民社協のように、地域で起きていることから地域支援活動に生かしていくというCSWの機能を、鷹栖町社協でも有しないといけない。

ただ、学習支援活動が地域に必要なという事実は共通であり、活動の展開方法及び広がりについては学ぶべきことも多々あり、今後の運営に生かしていきたい。

#### 【自主研修】

- ・東京都世田谷区社会福祉協議会（北沢地域事務所）

札幌市社協（厚別区社協）と大きく異なったのは、区民からの会費制度であった。地区には、50%を上限に活動費として還元していることは、おおよそ同じスタイルだが、その会費合計金額が、4500万円ということだった。地区には60～200万円還元しており、地域活動の活性化に繋がっている。また、区社協の財源確保にも大いに活用されている。一般会員（個人）は、1口300円以上から、共同募金の戸別募金のしくみと同様に、会員募集を行っているという。

（サロンについて）

担当職員はサロンへ訪問するようにし、運営の助言などを働きかけている。また、サロンへ訪問にいけない場合は、報告書の内容を確認するとともに代表への連絡をするなど関係作りに力を入れている。

最近では、介護予防教室などからサロンに転向するグループも多いが、サロンは、参加者と共にサロンを作り上げ、相互性を大事にできるか。というところを説明し、団体設立の際の意識を高めている。

世田谷区社協がサロンを支援できる財源には、会費の自主財源が大きく存在することが理解できたが、その自主財源作りが、より地域住民がサロンを開設しやすいしくみとなって好循環になっている様子が理解できた。

（生活困窮者自立支援の取り組みについて）

世田谷区社協では、生活困窮者自立促進支援モデル事業を実施している。

対象者は、生活保護受給者と受託支援給付受給者などの福祉サービス受給者や生活困窮者である。その事業を担うため、「世田谷区生活困窮者自立相談支援センター ぷらっとホーム世田谷」が設置され、自立相談支援及び貸付相談支援を一箇所で行い生活設計の相談が行える構造となっている。この点は、札幌市と違う点であり、世田谷区のスタイルの方が、生活困窮者が貸付相談に流れる場合は、スムーズな相談支援体制だと思われた。

日頃から、職員は求人の情報収集にあたり、1つの条件を2つに分割して、雇い主に対応してもらえるかなどのアプローチをかけているという。（例：9～17時勤務→①9～13時 ②13～17時 で分けて2人を雇ってもらう など）他にも、面接に同席させてもらう企業の開拓など、日頃から企業へアンテナを張っているということも話されていた。

また、貸付事業には平成21年度から東京都独自に「受験生チャレンジ支援貸付」という制度が実施され、高校または大学受験の費用の貸付がある。そして、もう一つは学習塾へ通うための費用（20万円）の貸付制度があった。この制度は、学校に合格すると、貸付金の返済が免除になるということであった。不合格の場合でも、申し立てを行うと（作文など）免除になる場合もあるということなので、かなり驚く制度が実施されている。そのため、貸付相談は、夏から塾費用の相談から始まり、秋ごろからは受験費用の相談、冬は学費の相談、春には受験料免除の対応が行われており、通年での対応ということであった。

- ・新宿区社会福祉協議会（介護支援ボランティアポイント事業）

新宿区の特徴は、18歳以上の方（区内在住、在勤、在学者及び区内活動者）が対象。全国的には65歳以上を対象にしている地域がほとんどである。

1ポイント100円、年間50ポイントが付与、翌年換金または寄附ができる。

活動の対象は、区内の介護施設だけでなく、地域見守り協力員やちょこっと困りごと援助サービスなど在宅のボランティア活動も対象にしている。

事業内容とボランティアの声などを載せたパンフレット(カラー)は有効的。

ボランティアに参加したい場合には、説明会に参加してもらおう。参加者を増やす工夫として、ボランティア入門講座やイベントとあわせて開催も予定している。

- ・東京臨海広域防災公園見学（そなエリア東京）

デパートのエレベーターに乗っているときに大地震が起きたと想定し、体験施設内で任天堂ゲーム機DSを使い、災害が起きてから行政等の支援が始まる72時間をどのように行動するのか等のクイズ形式で防災診断の体験を行なった。

### 【全体を通して】

- ・今回の研修に参加させていただき、先進地域で行われている実践活動のお話を聞いたり、道内各地の市町村社協職員との情報交換ができ自分たちの社協での参考となるものが非常に多く、自分自身の引き出しを増やすことができ非常に良かったです。また、次年度以降もこのような視察研修が継続できたら社協職員の意識向上や自分たちの地域の課題解決に向けての情報収集につながると個人的には思っております。

- ・普段、道外へ視察などに行く機会がないので、今回参加することができ感謝いたします。現地の社協職員をはじめ、ボランティアで活動している皆さんの熱意あふれるお話をきくことができ、よい刺激になりました。

また、今回は本会でも実施している「学習支援」や「介護支援ボランティア」についてもヒントが得られたので、今後の事業に活かしていきたいと思います。

- ・三ヶ所の先進地域を研修したことにより、普段の業務ではなかなか経験できない事例や、それぞれの事業についての取り組み方、課題などを目の当たりにすることによって、自身の普段の業務に対する考え方や方向性について非常に参考になることが多かった。その反面、小さな町村の社協では、なかなか専門の部署に専任の職員を配置できないという状況もあり、専門分野で活躍されている職員の方々を羨ましく思うことが多かった。

- ・研修に参加した方々とは初めてお会いする方ばかりでしたが、交流を深めることができ、今後の業務においてネットワークが活かされる場面があると思います。

- ・研修先で「男性の参加をどうしていくか」が課題と話されていたことが印象で、実際の業務においても感じていたことなので、男性特有で特に団塊世代は社会参加が少なくなる傾向にあるため、社会性を低下させないよう男性が得意とすることを企画したり、参加しやすい場を提供しなければならないのだと身近に感じた点でした。

- ・社協だけでは限界があるが、とっかかりやニーズを把握し、関係機関や行政、地域に発信していかなければならない大切な立場であることを再認識するとともに、課題は多いと思うが、職員の意識や教育面も向上させながら総合的に支援できる機関としていきたいと感じました。

地域の特徴をプラスに変えて誰しものが安心して住める街にしていきたいと思います。

時間の関係上、各事業をスタートさせる時点での社協としての関わりや苦悩、留意点やポイント等を詳細に聞けなかったことが残念でした。